

充実の2学期に！

2学期がスタートして3週間。子ども達にも学校生活のリズムが、戻ってきたものと思われまます。夏休みに入ると同時に開催された東京オリンピック、パラリンピックが終了し、この間多くの感動や勇気をもたらすことができました。特に、パラリンピックにおいては、勝敗を抜きにして、障がいを乗り越え挑戦する人間の強さや、可能性を追求する姿など、たくさんの学びを得たような気がします。ぜひ子ども達と教室で話題に取り上げる機会を作ってみてください。

夏のセミナー研修では、38講座にのべ448名の受講者がありました。授業に役立つ内容が数多くあり、すぐに実践につなげることができる研修内容もありました。研修だけで終わることなく、ぜひ授業に生かしてください。さらには、セミナー研修に参加されなかった先生方とも研修内容を共有



し、授業づくりを進めることが、校内研修の活性化につながるものと思われまます。

長い2学期、まだまだ先の見えないコロナ禍への対応もあります。感染力の強い変異株になってきているようであり、学校においても油断のないよう感染防止に努め、そんな中であっても、充実した学校生活が送れるようお願いします。

夏季セミナー研修！ ICT機器等活用実践セミナーから

夏季セミナー研修のICT機器等活用実践セミナーは、仁井田中学校を会場に9講座開催しました。

教師用デジタル教科書、デジタル端末、教室備付プロジェクターなど、ICT機器を使った授業づくりのための講座で、さまざまな機能や活用法の研修を実施しました。授業の中での有効なツールとして、積極的に活用しましょう。

以下、ICT機器等活用実践セミナー算数の講座での活用のポイントについて、紹介します。

《新しい算数 指導者用デジタル教科書（教材）活用のポイント》

- ①注目させる～見せたいところだけを一つ一つ大きく提示し、児童・生徒の注目を集めることができる。
- ②課題の効果的な提示～教科書だけではできない提示の仕方が可能である。
- ③思考を可視化する～児童・生徒の思考の過程を表現することができる。
- ④繰り返し提示する～道具の使い方を理解するまで、繰り返し示すことができる。
- ⑤学習内容の定着～練習問題を収録してある。
- ⑥授業準備の効率化～図版の印刷や提示用資料・ワークシートの作成ができる。
- ⑦既習事項の確認～学習内容の振り返りに活用できる。



学校は…？ 教師は…？

子どもは、真似をすべき人がいないと困る。子どもは、生きていけない。

子どもは、親や教師の生き方を真似て育つのだから。

子どもが、真似をすることができる学校でありたい。

(動物写真家・童話作家 竹田津 実氏)

あるシンポジウムにて、「今、学校に求められていることは？」のコーディネーターの問いに対しての言葉です。

「教育の始まりは、真似である」と言われることもあり、小さい子どもを教育する定型は、「真似る」が基本形です。

教師は、ことばを発して、行動に移して子ども達を教育している他に、『「真似」られて…』教育をいつの間にかしていることにもなります。我々教師の言動も、服装も、考え方も…。



「見取り」を大切にした授業を！

授業の中での教師の「見取り」では、一人一人の児童・生徒に対して、さまざまな観点から学びの姿を捉え、そして即座に判断して指導の改善に反映させることが大切です。今までも先生方は「見取り」を行いながら授業を展開してきましたが、さらに一人一人の学びの姿をていねいに見取り評価する中で、児童・生徒を中心とした授業づくりを進めていくことが求められています。

◎例《机間指導は、授業を支える大切な時間》

(京都府総合教育センター「教えて！センタ君！」より)

見る
(つかむ)

クラス全体の学習状況をつかみます。

- 指示や発問を理解して学習を進めているか。
- 学習に集中しているか。(学びに向かう姿勢)



診る
(分析・判断)

児童・生徒の活動の様子から展開を調整します。

- 時間はどれ位かかりそうか。(活動の修正や変更)
- だれを指名したら効果的か。(順番、内容、論点などの整理)

観る
(注意をはらう)

一人一人の様子を観察・評価します。(指導と評価の一体化)

- 活動が停滞したり、時間が余っていたりする様子はないか。
- ◆どんなことに困っているのか。◆どんな頑張りが見られるか。

みる
(指導・支援)

支援の必要な児童・生徒にアプローチします。

- 必要な支援は何か。
(課題設定の調整、個別指導、学び合いの声掛けなど)



【こんなことも効果的！】

- 教師の動線……机間指導時、偏りなく児童・生徒の状況をつかむために、教師の動線を意識しましょう。(順番に、S字型など)
- 座席表の活用……児童・生徒の状況をメモし整理するのに便利です。記号で簡素化するなど工夫を。

授業チェック

教師も振り返りの時間を大切にしましょう！(以下は参考項目です)

- 子どもが授業に集中していますか。
- 子どもは、今学習していることのねらいをつかんで、取り組んでいますか。
- 授業が一部の子ども発言で進行していませんか。
- 「居心地が悪い」と感じている子どもはいませんか。
- 当てられたらどうしようと、ビクビクしている子どもはいませんか。
- 間違ったことを言って、笑われている子どもはいませんか。
- 授業の中で、一人一人が認められていると実感する場面はありますか。
- 自分たちの問題を自分たちで乗り越える体験をさせていますか。



心の扉と学び！

子どもの心に扉があるとすれば、その取っ手は内側にしかついていません。子どもの心の扉を開くには、子ども自身がハッとする気づきの体験が大切であり、教師の役割は、一方的な教えによって無理やり扉を開けさせるのではなく、子ども自身にできるだけ多くの気づきの場を提供することです。人は教えられたことはすぐ忘れますが、自分で気づいたことはなかなか忘れません。自分で気づく、だからやる気になる。これこそ、学びの出発点。やる気になった子どもの伸びしろは無限大です。知識を与えることも大切ですが、それ以上にやる気にさせることが最も大切です。